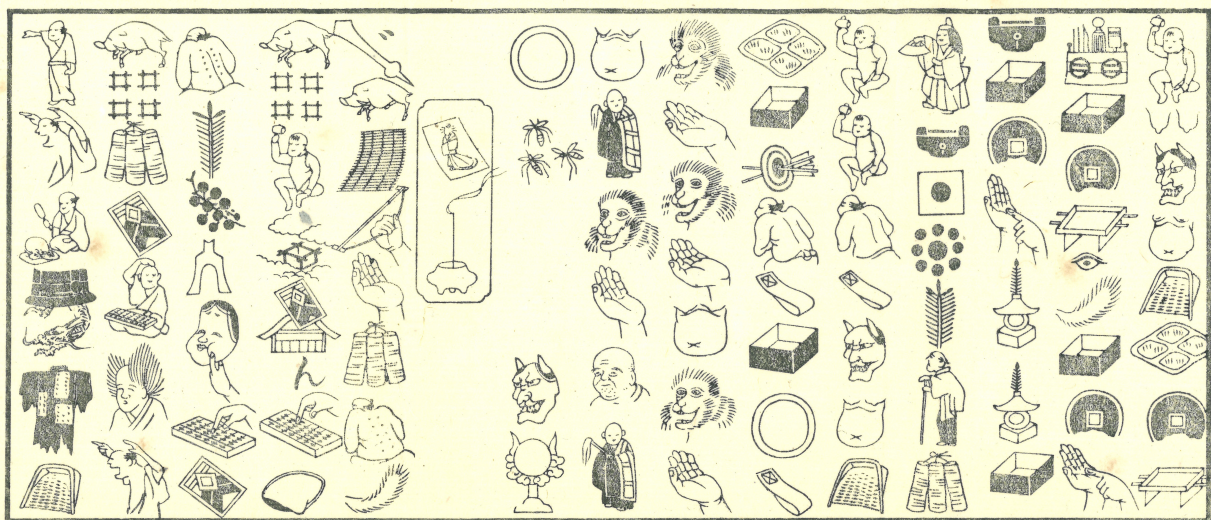
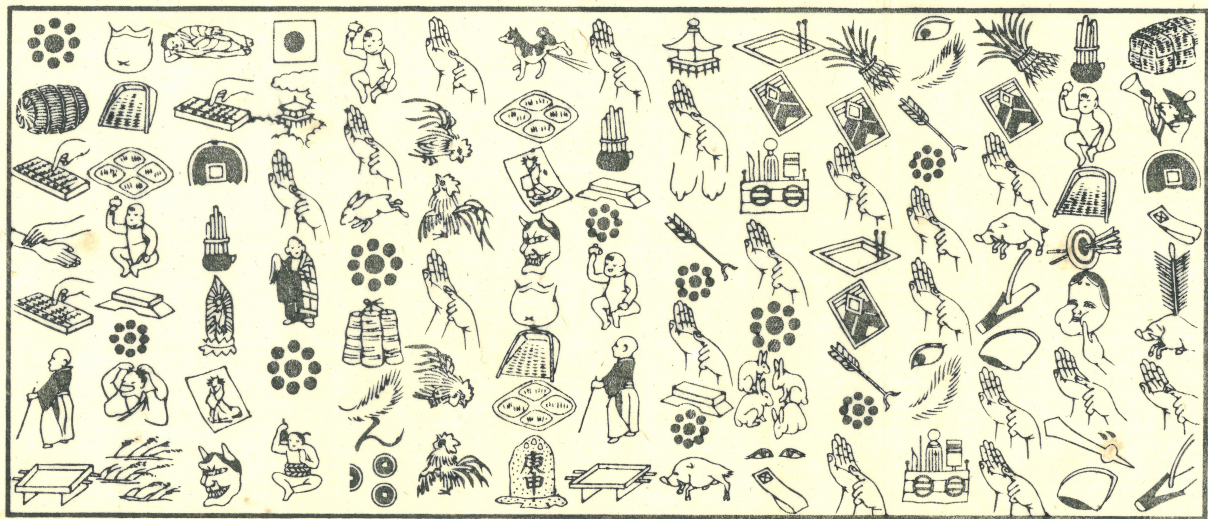
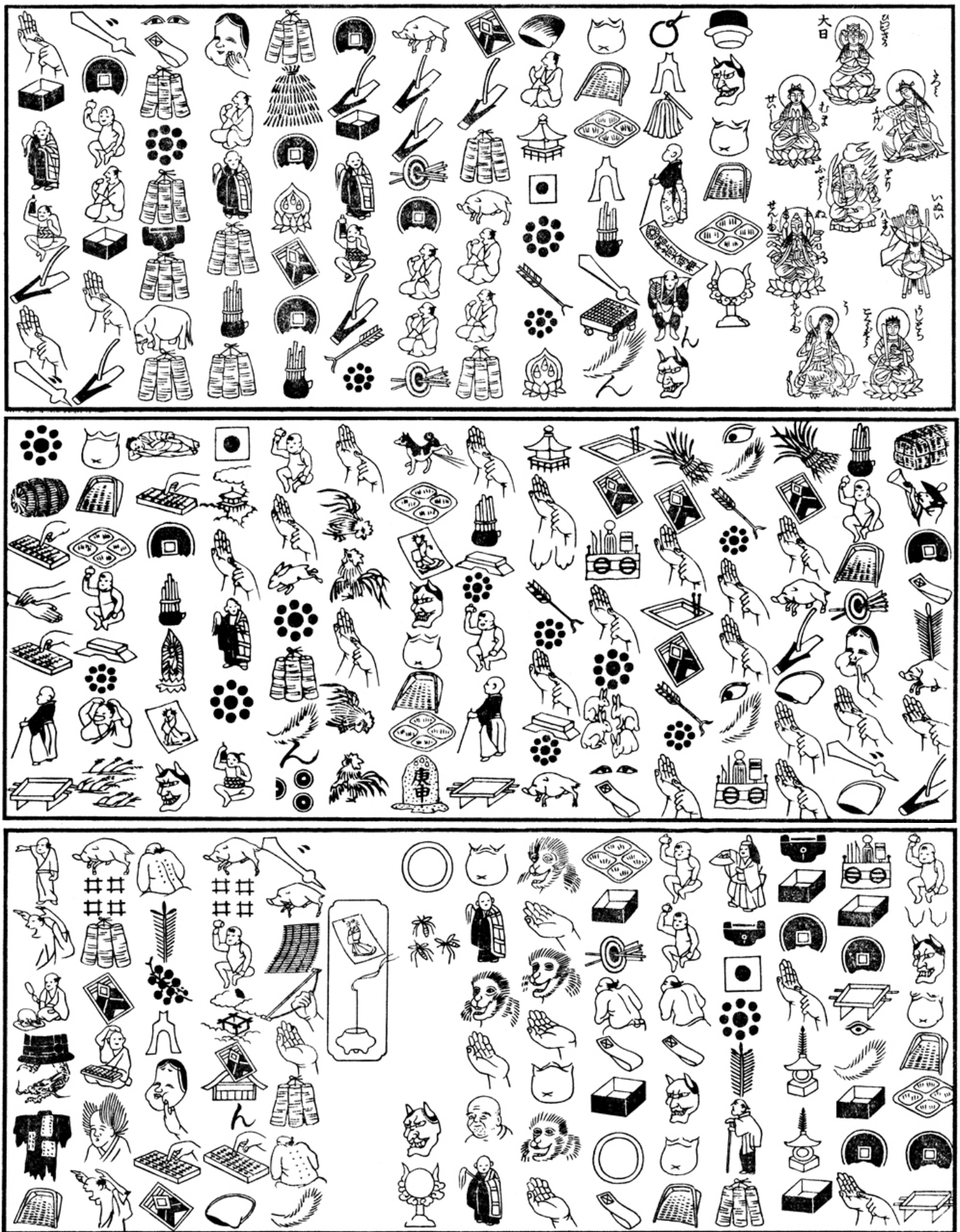


般若絵心経

画像提供：岩手県立博物館

《盛岡系舞田屋版 原図》





般若心経を絵で表したこの「絵心経」は、天保年間（1830年代）に岩手県で創案された「盛岡系舞田屋版」とされるもの。当時は義務教育などなく文字の読めない人もいたため、誰でも般若心経に触れられるようにして民衆の心の安寧を図る目的のほか、明るくユーモラスな庶民の読み物としても流布したと考えられる。最初と最後には十二支の守護仏と回向文が書かれる。写実的な絵文字は、この時代に流行した“判じ絵”の趣も感じられる。[参考：監修 佐藤勝郎 トリョー・コム 1973年刊]

岩手県立博物館提供による原図 サイズ：16 cm × 120 cm 折り本